

# 平成26年度地域包括支援センター 活動状況について

平成27年度第1回大阪市地域包括支援センター運営協議会  
平成26年6月29日(月)

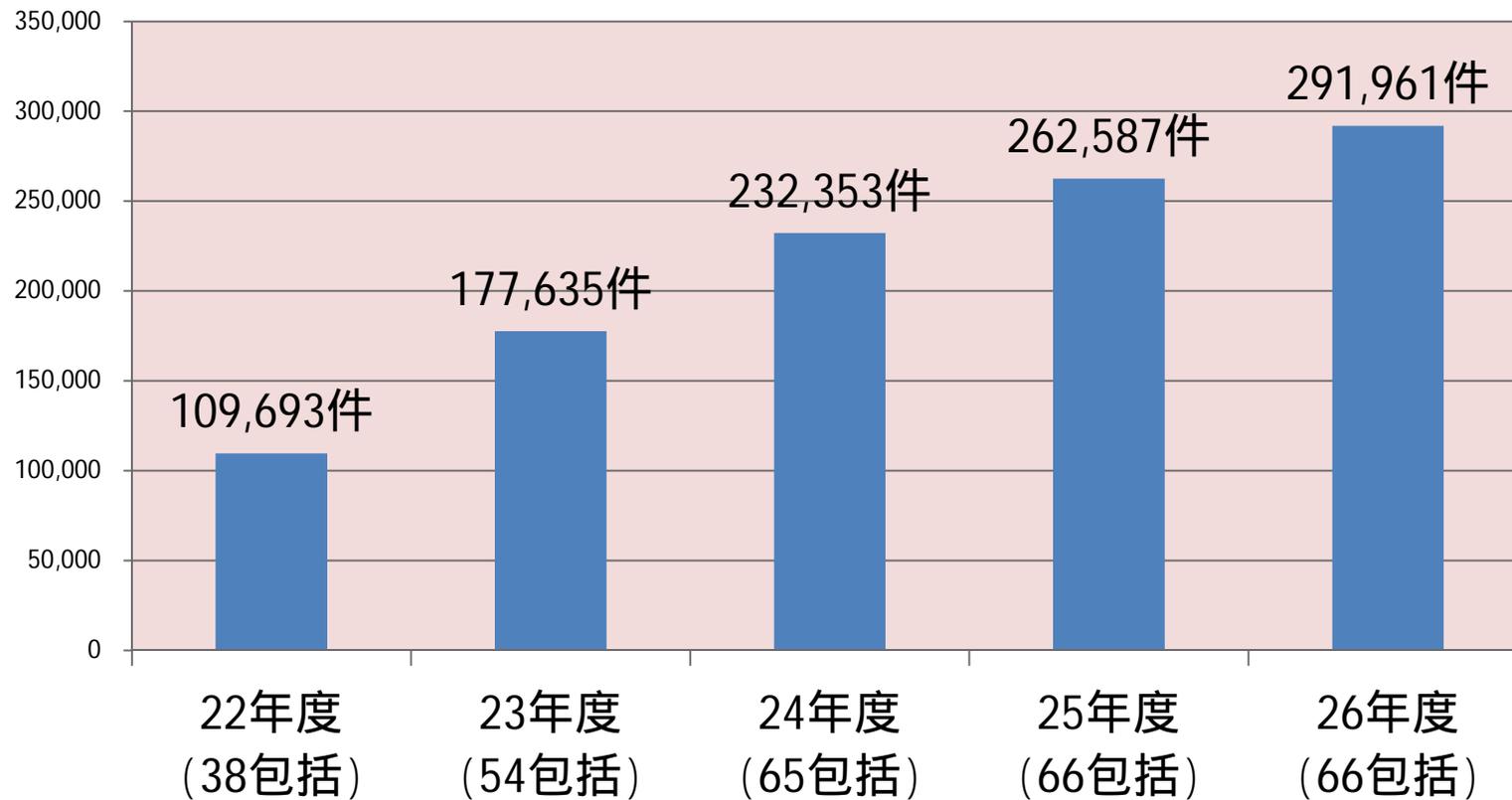
大阪市社会福祉協議会 福祉総括室 地域福祉課

# (1) 高齢者の総合相談

## - 1 相談延べ件数

・包括の複数設置完了後も、相談件数は年々増加している。

延べ相談件数総数

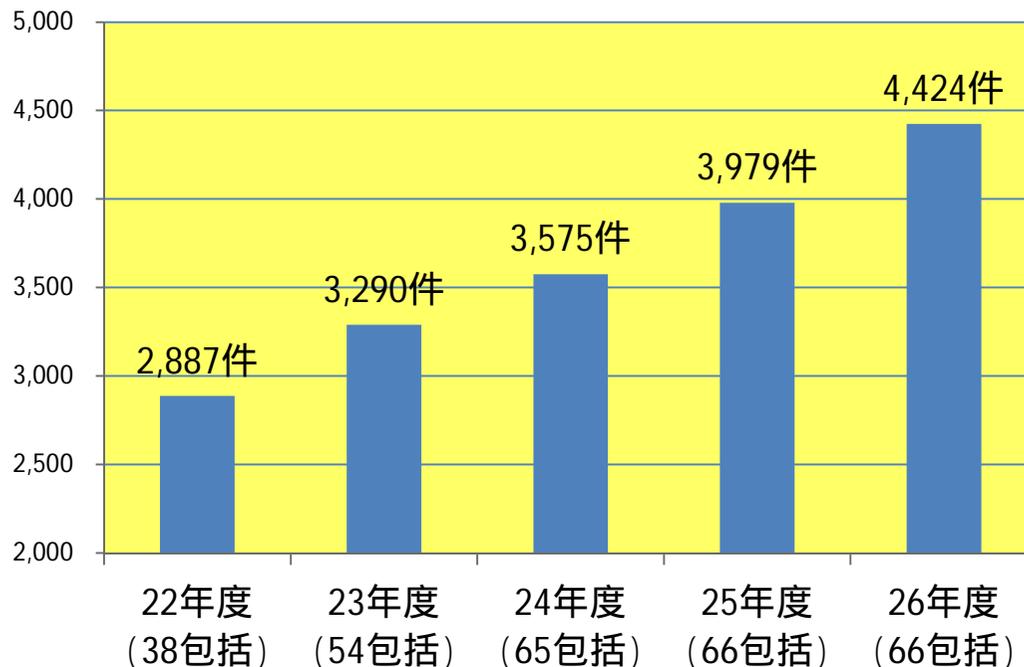


# (1) 高齢者の総合相談

## - 1 相談延べ件数

- ・平成26年度の延べ相談件数(包括1カ所あたりの平均)は平成25年度に比べ約**11%**増加している。
- ・包括の複数設置により、地域に密着したよりきめ細やかな相談ができていると思われる。また、包括の知名度も上がってきていると考えられる。

包括1カ所あたりの平均延べ相談件数



### 延べ相談件数が多い包括

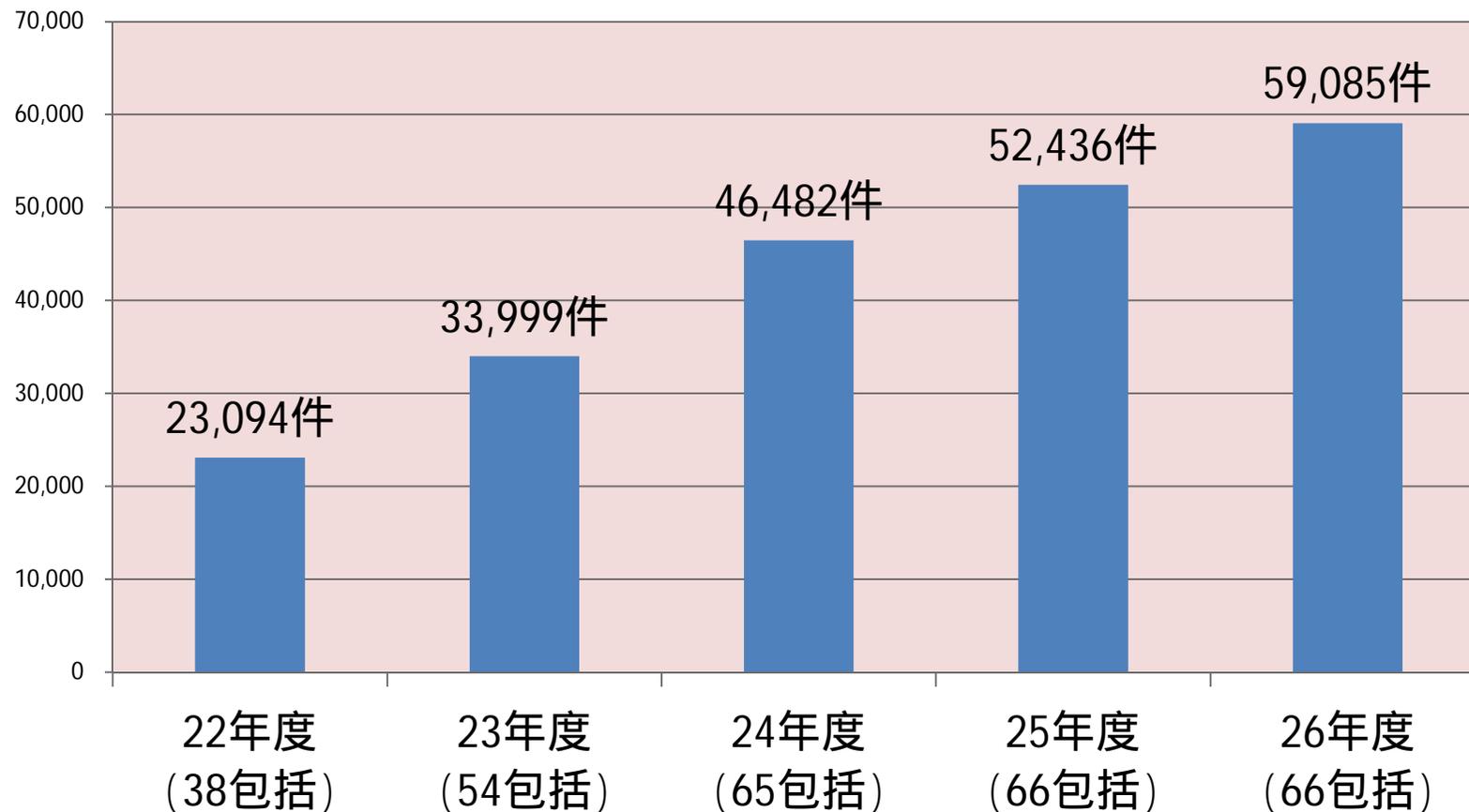
- ・鶴見区(12,276件)
- ・旭区西部(6,938件)
- ・西区(6,570件)

# (1) 高齢者の総合相談

## - 2 相談実人員

・相談実人員も年々増加している。

相談実人員総数

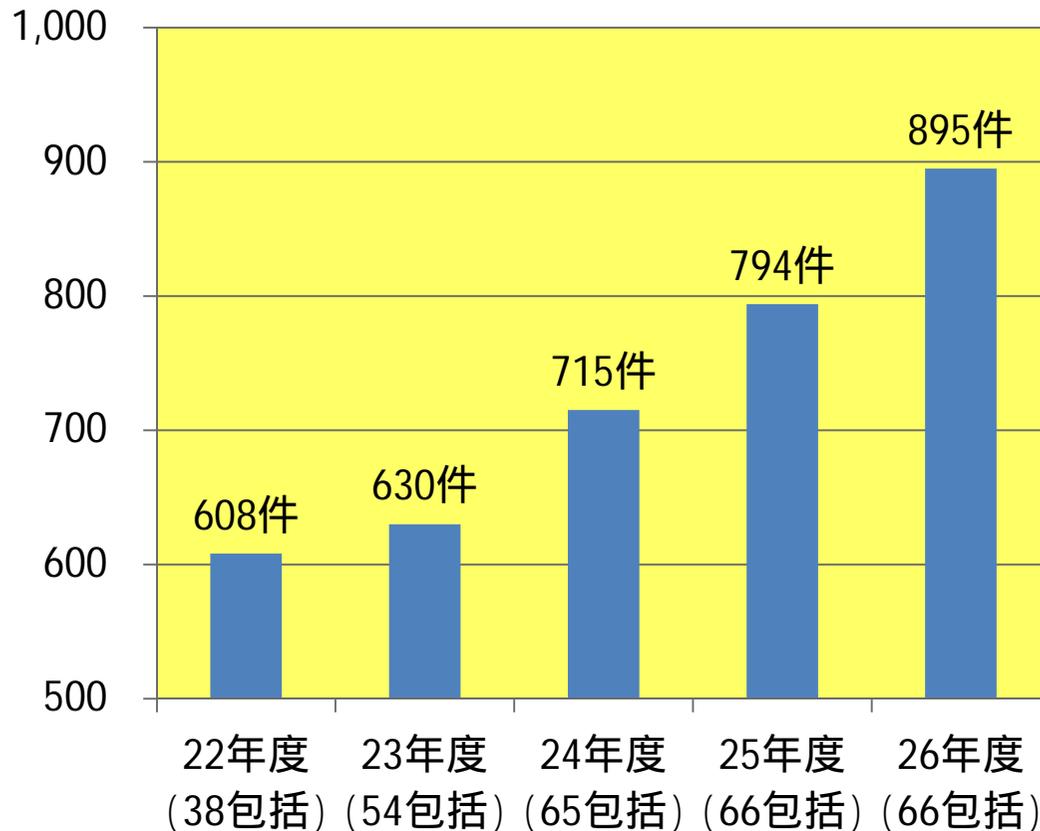


# (1) 高齢者の総合相談

## - 2 相談実人員

- ・包括1カ所当たりの相談実人員も増えてきており、包括が身近な相談窓口として浸透してきていると考えられる。

包括1カ所当たりの平均相談実人員

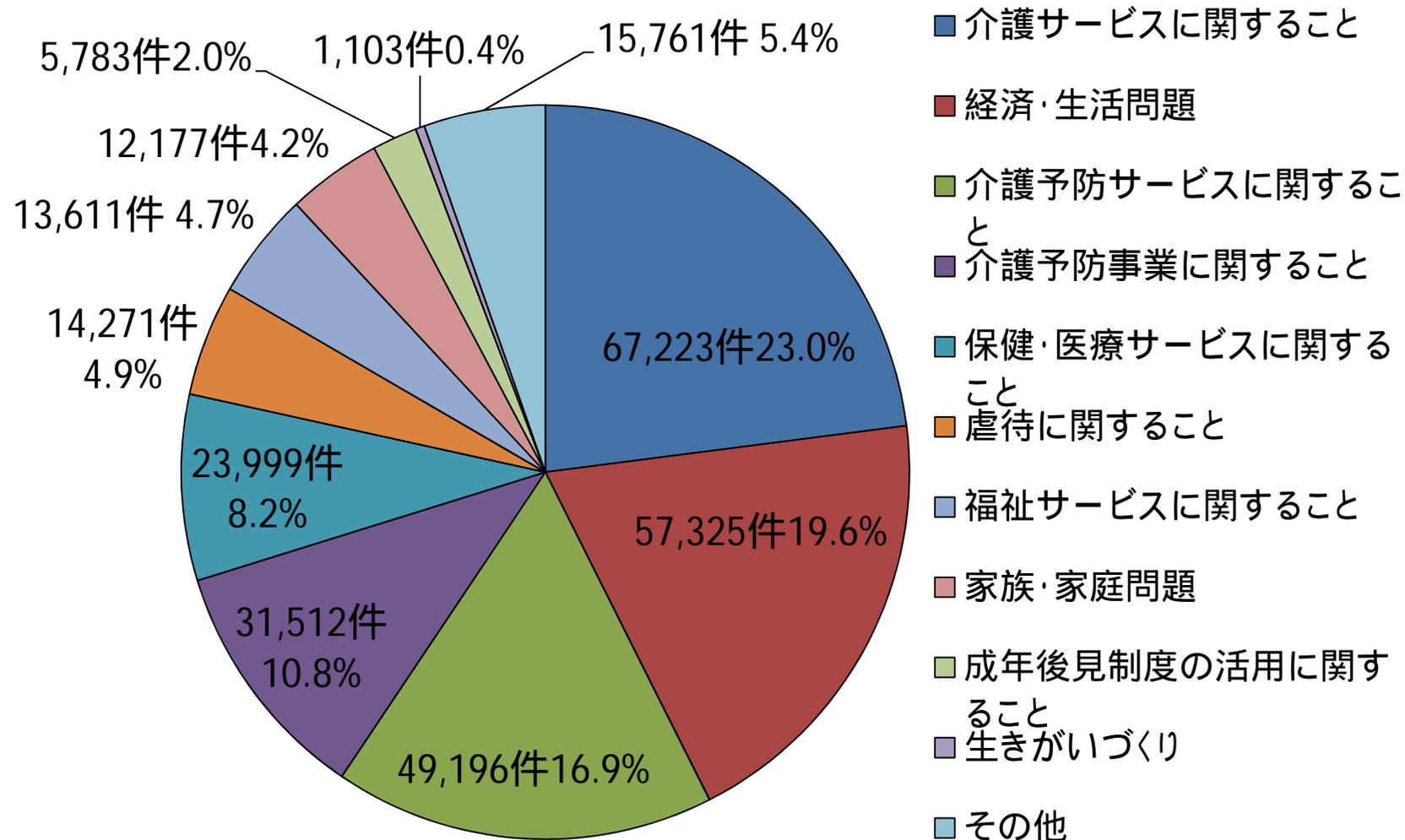


### 相談実人員が多い包括

- ・西区(1,693件)
- ・福島区(1,441件)
- ・西成区(1,379件)

# (1) 高齢者の総合相談(包括)

## 総合相談内容(平成26年度) 延べ相談件数の内容の内訳



## (1) 高齢者の総合相談

### 総合相談内容からの考察

- ・前年度と比較し、**約7割**の包括で相談件数の増加が見られる。
- ・相談実人員の**約4割**が訪問による相談となっている。
- ・相談実人員における訪問件数が多い包括は、**訪問**によりアセスメントを深めるよう意識されており、**アウトリーチ**に重点をおいている。また、交通手段が少ないなどの地域の条件より訪問による支援が必要となっている包括もある。

#### 相談実人員における訪問相談の割合が高い包括

- ・淀川区西部(72.6%) ・さきしま(62%) ・玉出(60%)

## (1) 高齢者の総合相談

### 総合相談内容からの考察

- ・1人当たりの相談回数が多い包括は、個々のケースを大切にしよう意識している。必要に応じて関係者等にもアセスメントを丁寧に行っている。

#### 1人当たりの相談回数が多い包括

- ・鶴見区(10件)      ・此花区(9件)      ・旭区西部(9件)

- ・高齢者人口に占める相談実人員の割合が**10%**を越えている包括も増加しており(24年度は9カ所、25年度は10カ所、**26年度は23カ所**)、**身近な相談窓口**として浸透してきていることがうかがえる。

#### 高齢者人口に占める相談実人員の割合が高い包括

- ・鶴橋(14.8%)      ・鶴見区(14.0%)      ・西区(12.7%)

## (5) 包括の取り組みについて(実績からの考察)

- ・実績において特徴的な包括について、訪問し、取り組みとの関係性を考察した。

### 1. 西区包括の取り組みについて

#### 【実績の特徴】

相談実人員・来所相談・高齢者人口に占める相談実人員の割合が高い。1人への相談回数は少ない。

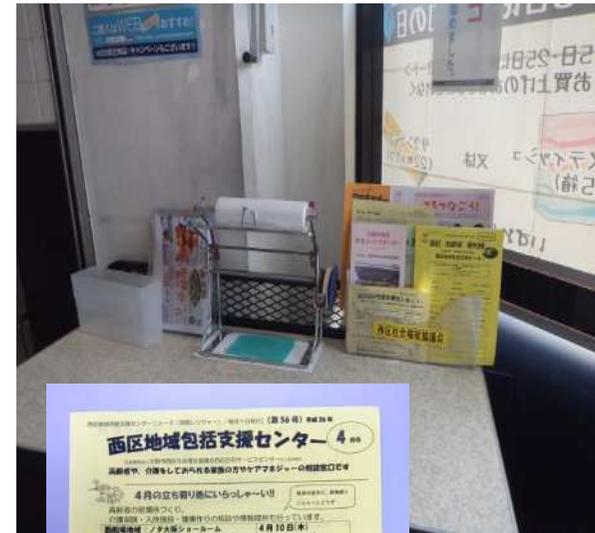
会議開催件数では、地域との関係づくりが多く、スーパーや銭湯などに毎月広報物を媒体に訪問している。周知用うちわなどの配布。

## 【個別の地域ケア会議から見えてきた課題と取組み】

地域ケア会議の約半数が高齢化率が高く、単身者向けマンションが多いA地域のケース。総合相談もマンション住民が多い。**重度化する前に相談につなげる取組みが必要。**



地図上にマッピング、マンションや  
高齢者の集う場所を調査  
銭湯や喫茶店、スーパー等に包括  
レンジャー(広報誌)の設置  
マンション管理人を通じ講演会実施



## その結果

- ・高齡者人口における相談実人員 3.5%増加
- ・本人からの相談、地域住民、民生委員からの相談が増加。  
「包括レンジャーを見ました」という相談が増えた。

## 【考察】

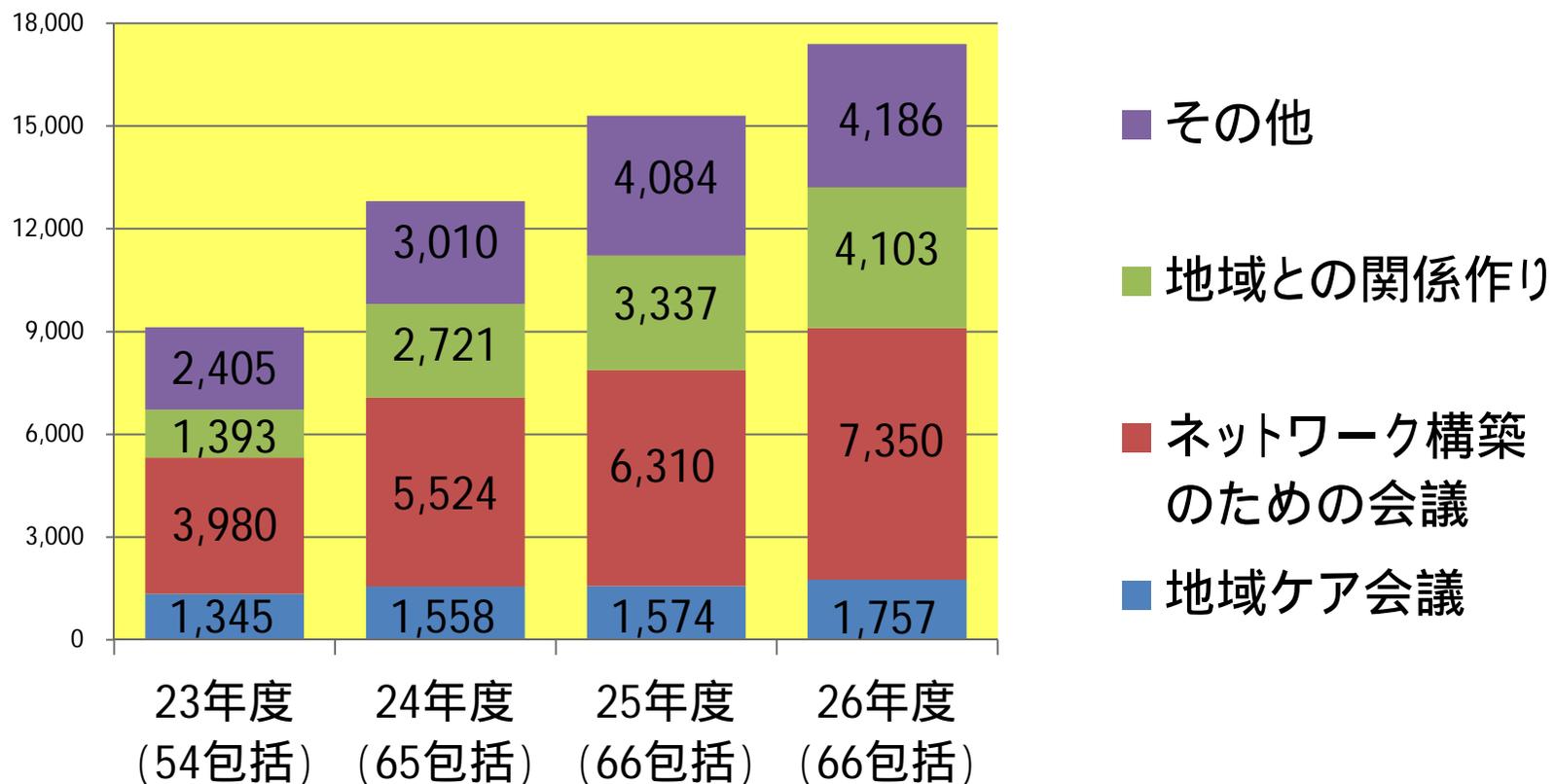
包括の継続的な周知活動が、早期の予防的な相談に繋がっていると考えられる。

## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

### - 1 会議開催・参加状況

・会議開催の総数も年々増加してきている。

会議開催数(総数)

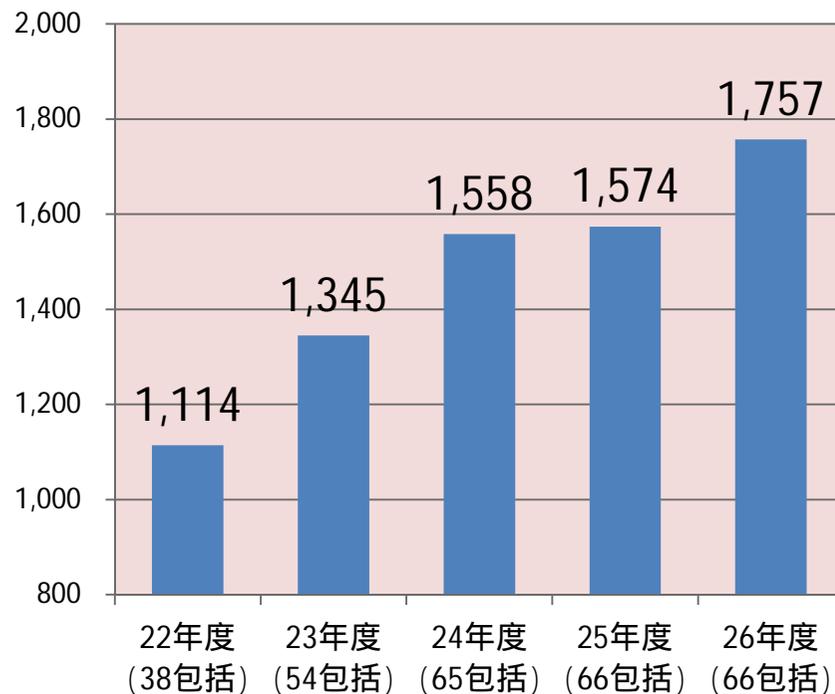


## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

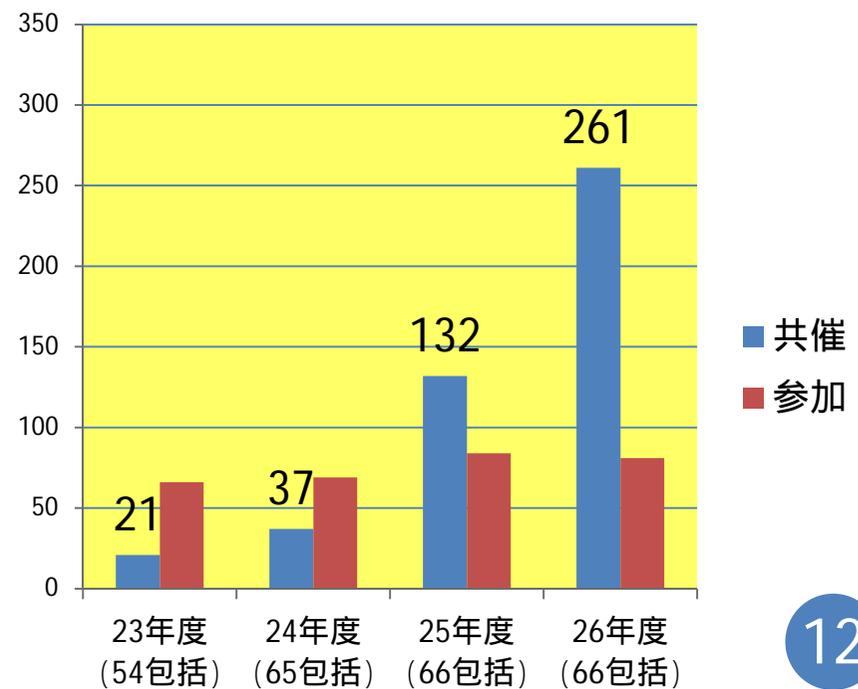
### - 1 会議開催・参加状況(地域ケア会議)

- ・地域ケア会議の開催数は年々増加している。
- ・ランチも地域ケア会議を開催するようになり、包括とランチとの共催も多くなっている。

地域ケア会議開催数(総数)



共催・参加会議数



## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

### - 1 会議開催・参加状況(地域ケア会議)

- ・個別ケースの検討以外にも、振り返りの事例検証のケア会議や、小地域ケア会議などの地域の課題検討についてのケア会議も増えてきている。(平成26年度より、月報の項目を設定し計上。)

#### 1. 個別ケース検討の地域ケア会議

主催	共催	参加
1,095 件	217 件	76 件

- ・個別ケース検討の地域ケア会議では、継続した支援の中で、支援経過の確認や危機介入の時期の検討など、モニタリングの地域ケア会議も開催されている。

## 2. 事例検証・ふり返りの地域ケア会議

主催	共催	参加
89 件	30 件	5 件

- ・スーパーバイザーを招いているのは、79件であり、全体の約6割となっている。学識経験者や専門職(医療関係者、弁護士、司法書士、社会福祉士など)が参加している。また、高齢者相談支援サポート事業を活用しスーパーバイザーを招いているところも約20件ある。
- ・開催形態としては、「地域ケア会議のレビュー会議として、スーパーバイザーを招いて実施している」「年度の特徴的な事例を取りあげ、小地域ごとにスーパーバイザーを招いて検証している」などがある。
- ・支援者や関係者のスキルアップにつながっている。
- ・地域課題の集約につながっている。

### 3. 見えてきた課題のまとめの地域ケア会議

主催	共催
231 件	14 件

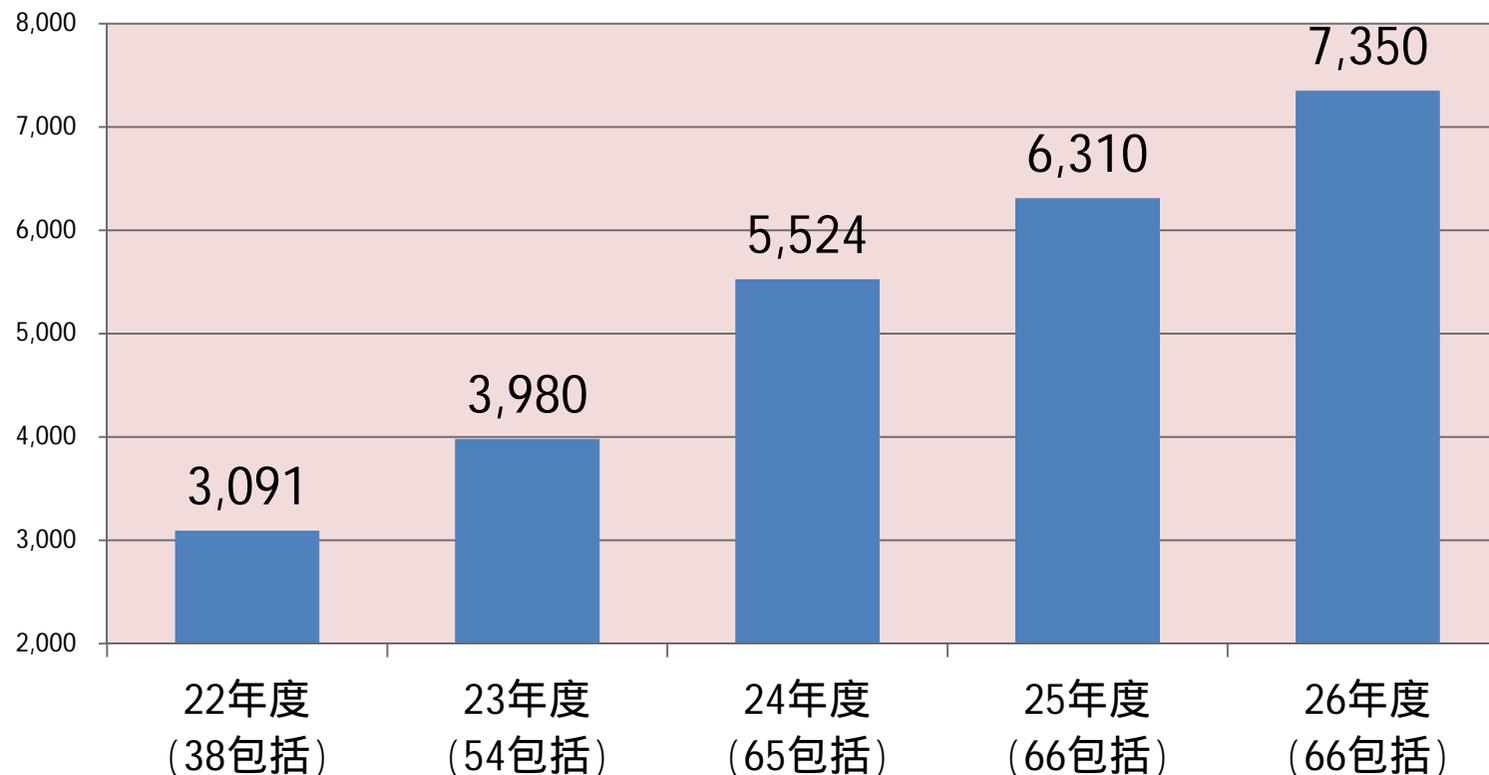
- ・個別支援の地域ケア会議から見えてきた地域の課題を集約し、共通した課題をまとめ、地域の関係者に報告し、取り組みを検討していく会議。
- ・地域の関係者に報告する際に、パワーポイントなどでわかりやすく説明する、白板を効果的に使って事例を紹介するなどの**伝える工夫**がされている。
- ・(小地域ごとに開催している)(定期的な開催形式をとっている)(スーパーバイザーを招いて年度のまとめをおこなっている)等包括ごとに地域の実情に合わせた開催形態をとっている。

## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

- 2会議開催・参加状況(その他NW構築・地域との関係づくり)

・その他NW構築のための会議開催数も、包括複数設置にも比例し、**年々増加**している。

その他NW構築のための会議開催数(総数)

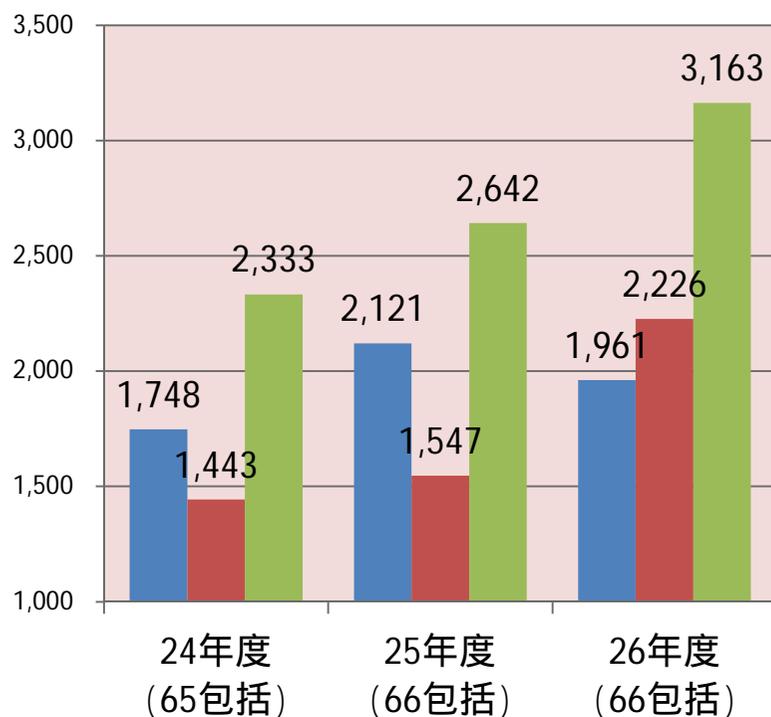


## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

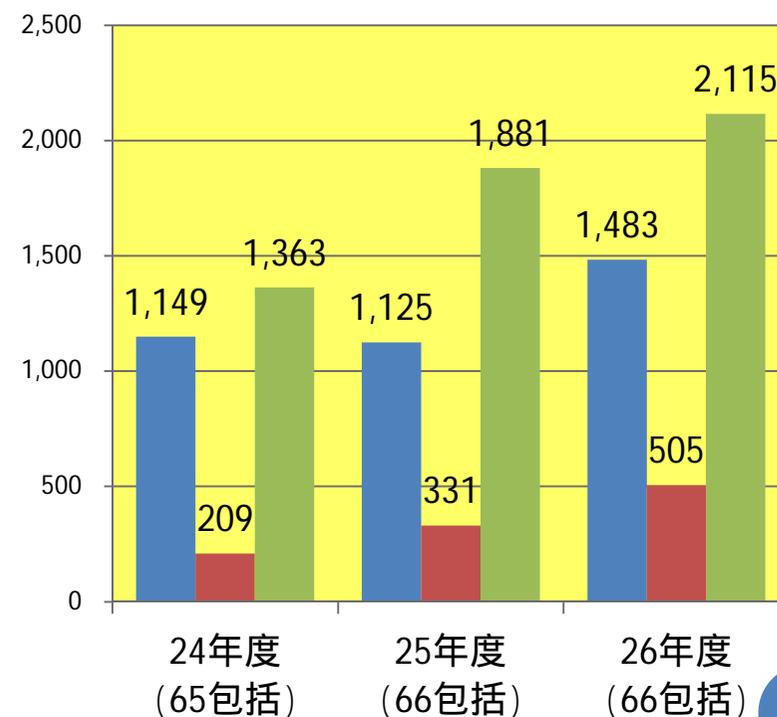
- 2 会議開催・参加状況(その他NW構築・地域との関係づくり)

・その他NW構築、地域等との関係づくりに関する会議については、主催とともに**共催・参加件数も多い。**

その他NW構築のための会議



地域との関係づくり



## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

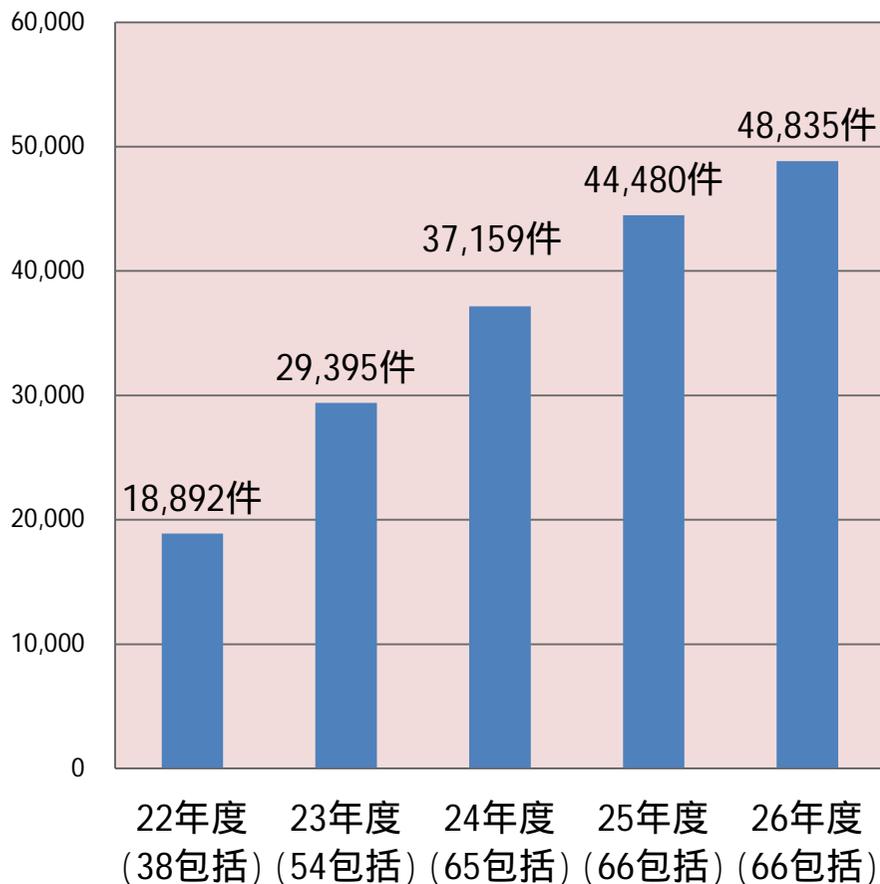
### 会議開催・参加状況についての考察

- ・会議開催の合計数は、平成25年度に比べ**約14%**増加。
- ・その他NW構築の開催数も増えており、参加も増えてきている。それぞれの区や地域における様々なネットワークが**増えていたり活発になってきている**と考えられる。
- ・その他NW構築、地域との関係づくりについては、**既存の地域の集まり(食サ・喫茶等)**を活用し、参加しながら関係を構築している。
- ・既存の地域の集まりだけではなく、広く一般の方が立ち寄る**郵便局、病院、スーパー、コンビニ**などにも訪問し、包括の周知をおこない、見守りの眼を広げている。
- ・アクションプランなどで生まれた地域のつどいの場を、**包括が後方支援しながら継続**させている。

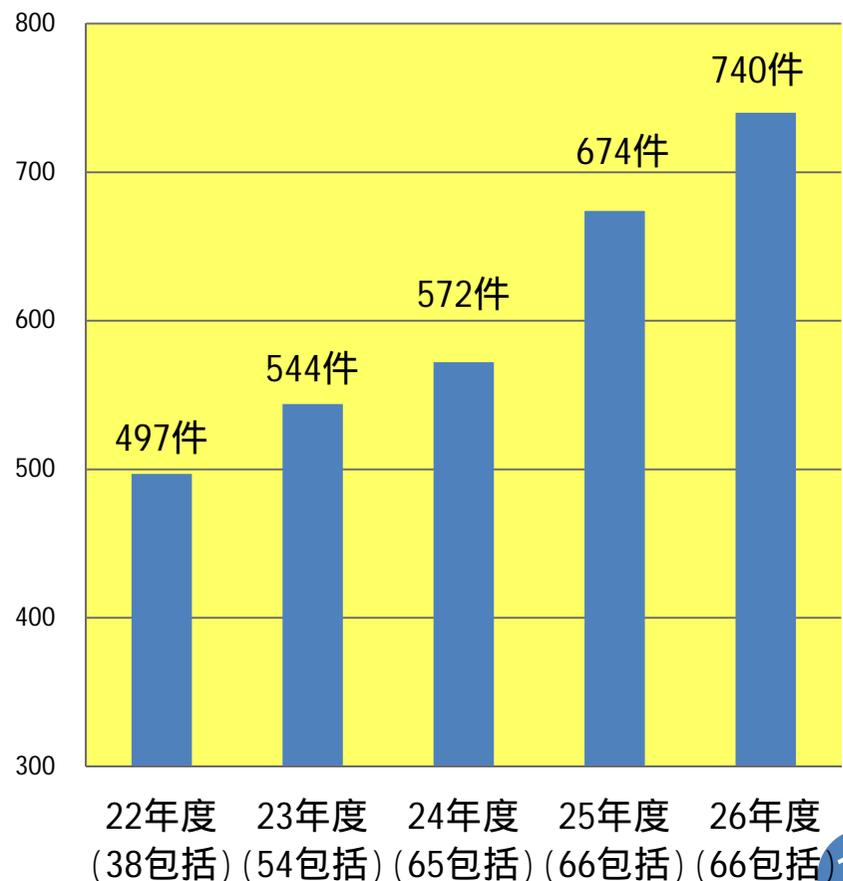
地域密着型サービス運営推進会議への参加については、圏域内の該当施設の有無や設置数の違いにより、参加回数が**0回 ~ 56回**と包括により差が大きいが増加している。

## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント 介護支援専門員への支援

介護支援専門員個別相談件数  
(総数)

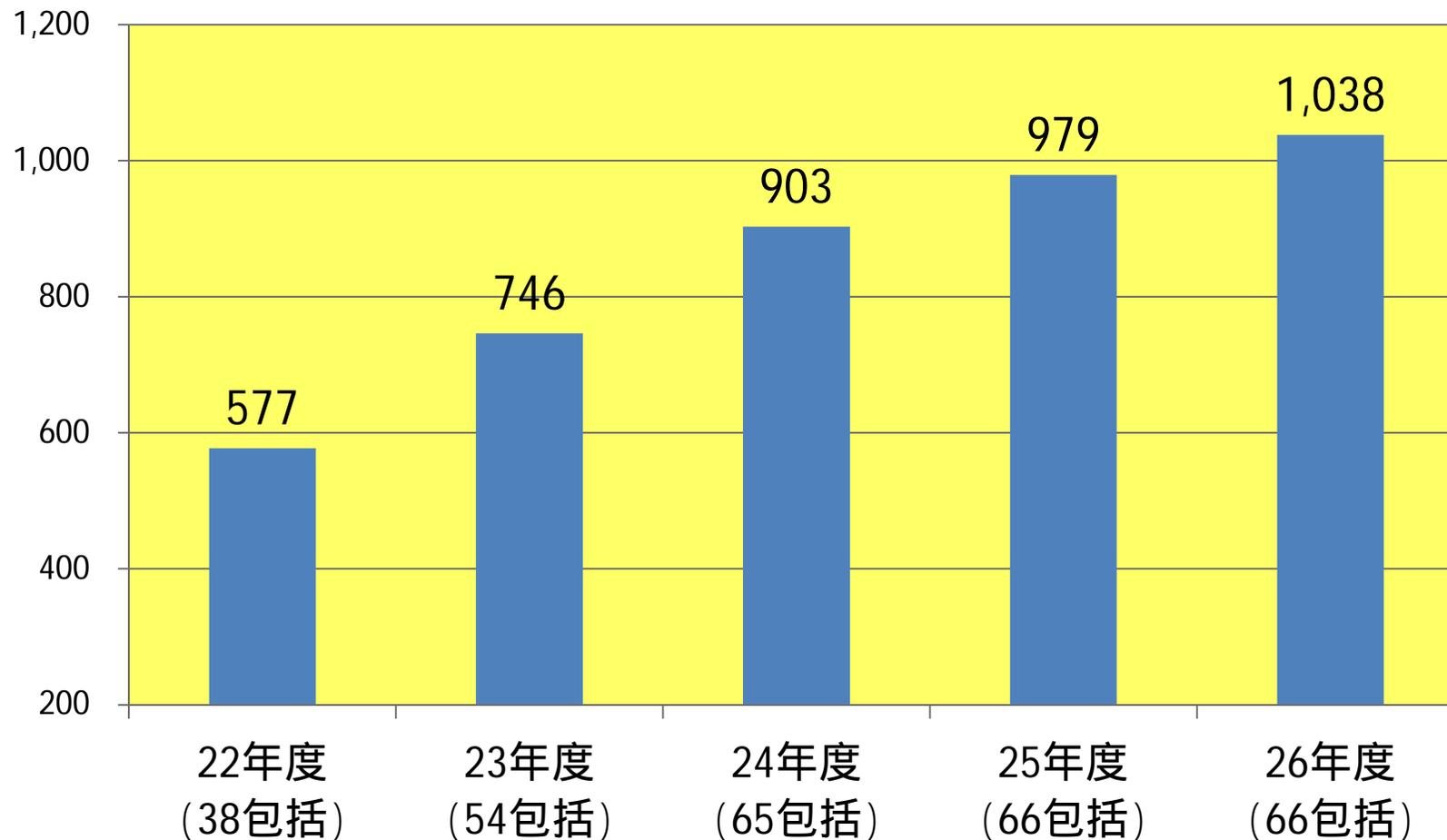


介護支援専門員個別相談件数  
(包括1カ所あたり)



## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント 介護支援専門員への支援

居宅介護支援事業者連絡会の開催状況



## (2) 包括的・継続的ケアマネジメント

### 介護支援専門員への支援についての考察

- ・居宅介護支援事業者連絡会の開催・参加の増加に比例して、**介護支援専門員個別相談件数も増加している。**

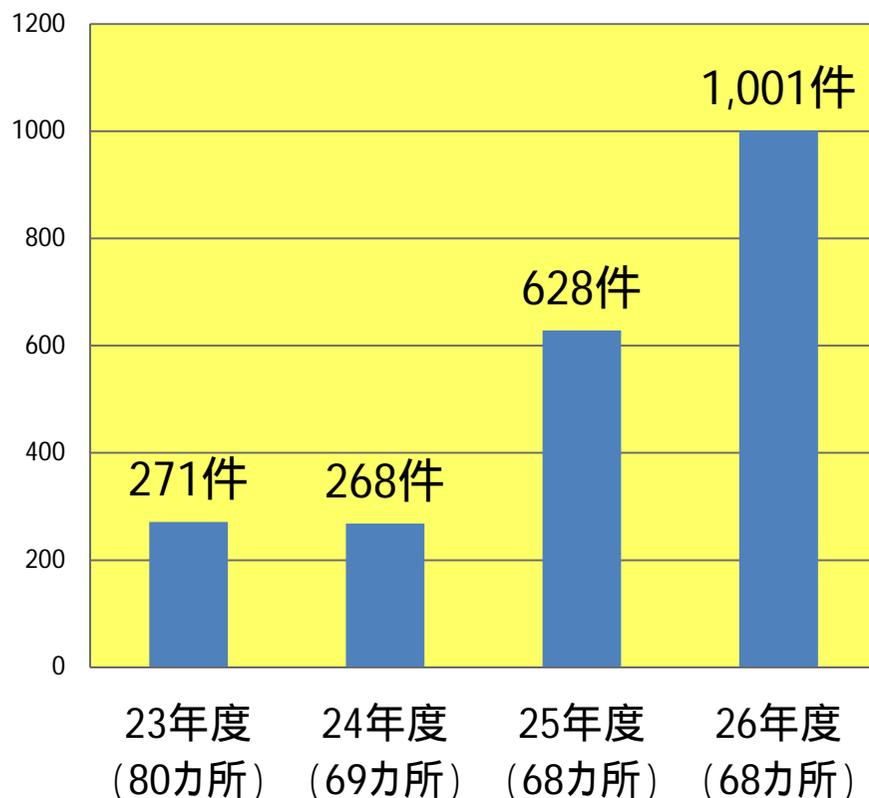
包括が連絡会の運営に後方支援として関わり、ケアマネジャーとの関係を構築することで、個別の相談につながっていると推察される。

- ・また、地域ケア会議の開催数も増えており、個別支援の地域ケア会議にケアマネジャーが参加していることも多く、ケアマネジャーとのケース支援を通じた関係づくりもすすんでいると考えられる。

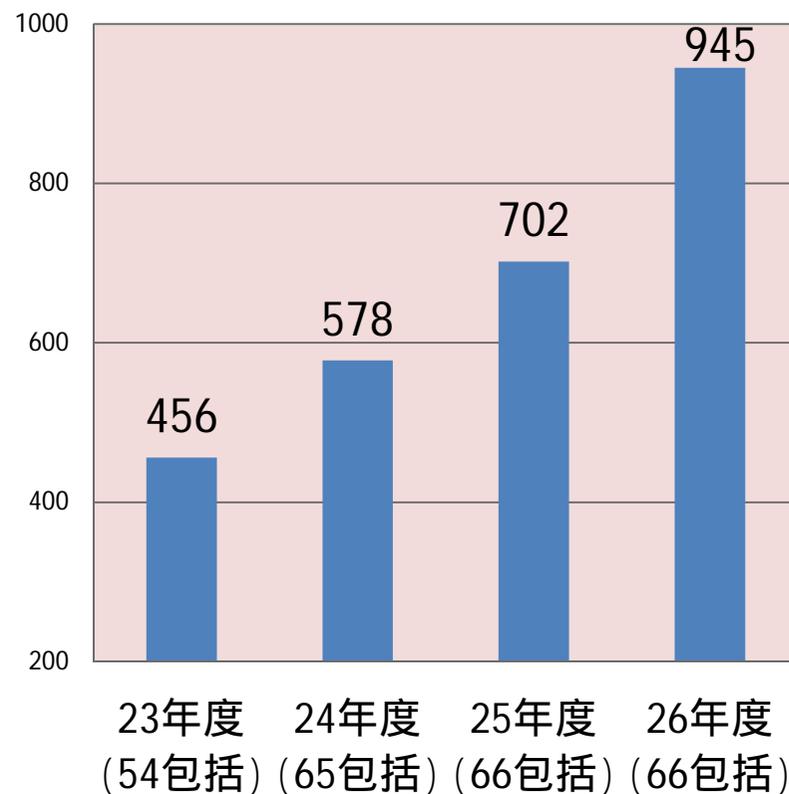
### (3) 総合相談窓口(ブランチ)

・平成25年度より相談員の1人配置移行にともない、ブランチ1カ所あたりの延べ相談件数は増加している。また、包括が開催するブランチ連絡会も開催数が増加している。

延べ相談件数(1ブランチあたり)



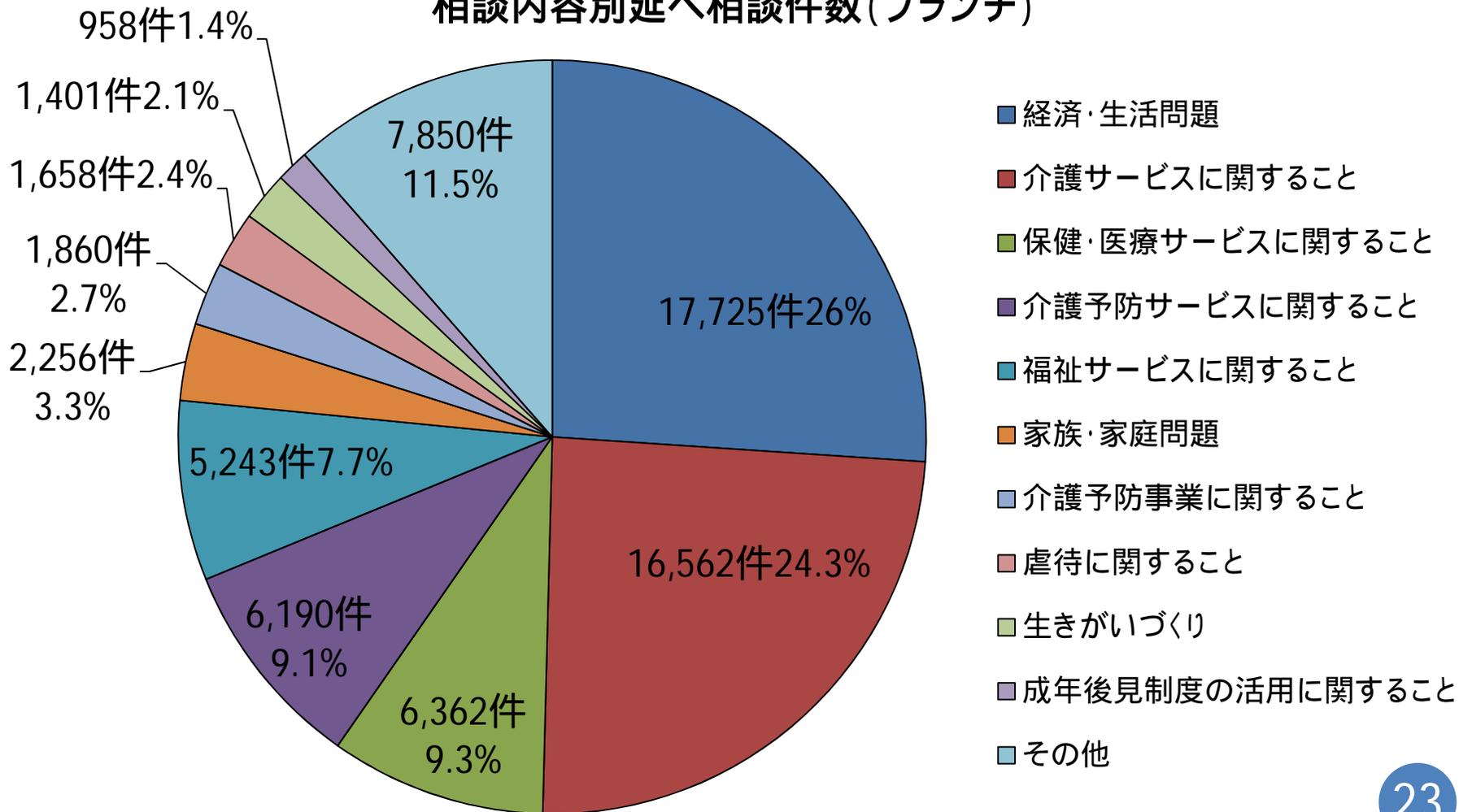
ブランチ連絡会開催数(総数)



### (3) 総合相談窓口(ブランチ)

総合相談内容(平成26年度) 延べ相談件数の内容の内訳

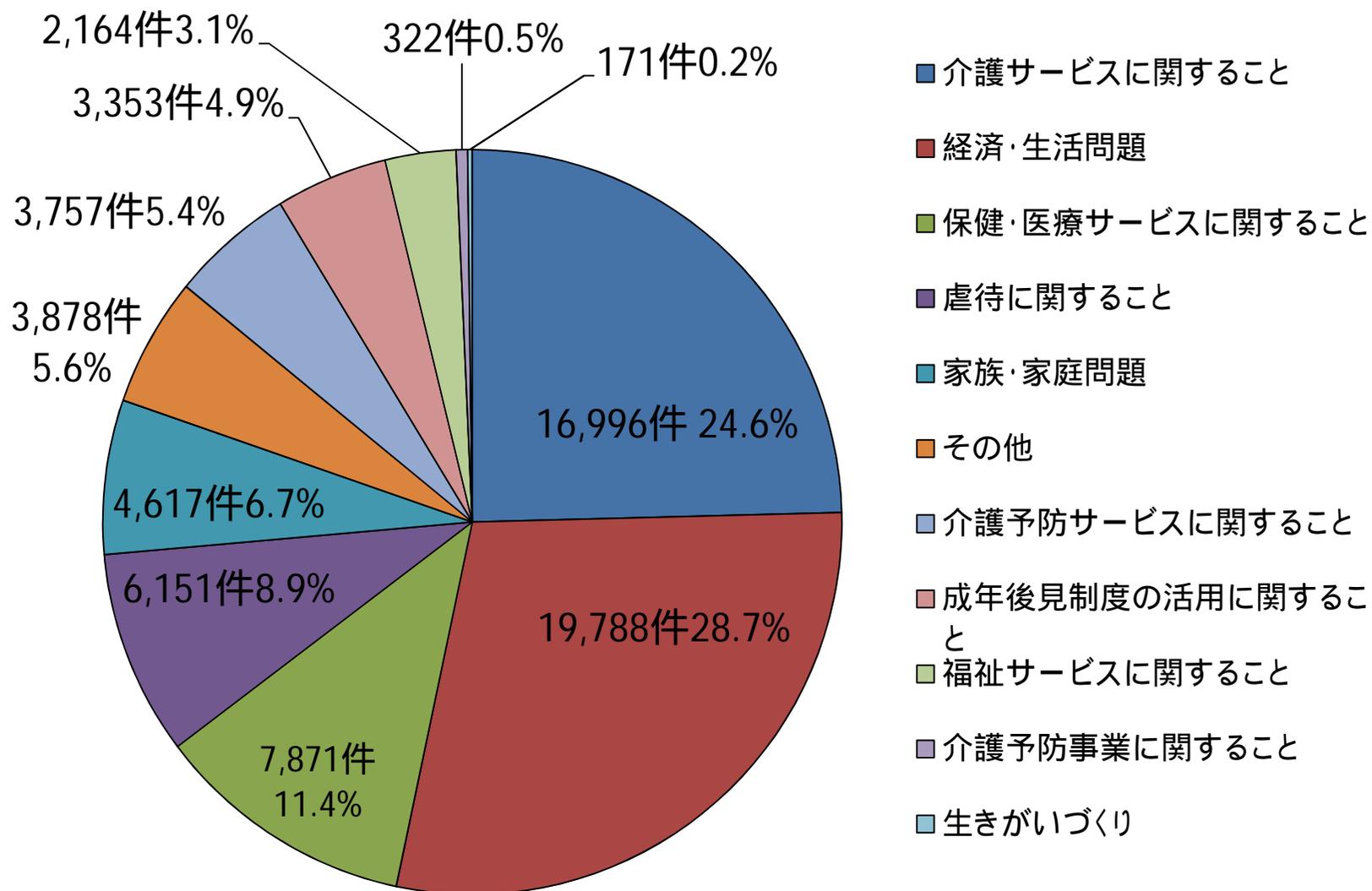
相談内容別延べ相談件数(ブランチ)



## (4) 認知症に関する相談について

### ・認知症の方の総合相談内容(包括)

### 延べ相談件数の内訳



## (4) 認知症に関する相談について

### 認知症の方への支援についての考察

- ・認知症の疑いがある方の1人あたりの平均相談回数は、**9.1回**で、全相談平均の4.9回より多い。  
認知症の方には、**より手厚い支援が必要**となっている。
- ・「成年後見制度の活用に関すること」「虐待に関すること」「家族・家庭問題」の相談について、認知症の方の相談の割合が高く、同時に訪問による支援の割合も高い。
- ・相談内容別の認知症の方の相談の割合の比率については、前年度とほぼ同じであるが、「成年後見制度の活用に関すること」の比率が多く増えている。

認知症の方の支援については、**成年後見制度や虐待、保健・医療サービス**について、支援体制の充実が必要となると考えられる。(包括へのバックアップ体制なども)

～ 包括連絡調整事業における実績分析について～

市内の包括では地域の実情に合わせた様々な取り組みがすすめられている。

各包括における取り組みについて、訪問による聞き取りなどをおこないながら実績とも交えて考察し、包括・ランチに参考としていただけるように内容をフィードバックしていく。

**今年度も更なる包括の取り組み・実績の  
把握に努めます。**

**大阪市社会福祉協議会 福祉総括室 地域福祉課**